

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	救急現場へ出動中の車内にて救急隊員が転倒し右手小指を脱臼
3. 体験した事例の中心的要素	現場到着後の救急活動をスムーズにするため、走行中の救急車内にて不安定な中腰状態で救急資機材の準備をしていた。
4. 体験した事例の原因・理由	緊急走行中にも関わらず不安定な中腰状態で搭乗していたという注意力の欠けと油断

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成22年5月22日 午後2時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：救急車内
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	転倒
7. 事例体験時の活動	救急出動途上、[]
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	その他：救急現場へ緊急走行中
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

● ●

○当事者A	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動[]、任務[]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動[]、任務[]
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動[]、任務[]
○その他(当事者が4人以上の場合)	当事者A(現場経験2年、階級[消防士長]、同様の活動:頻繁、任務:隊員)

● ●

	誰が ⁶ (何が ⁸)	なにをした	その他・備考など
経過1	Aが資機材準備中	救急車が急制動したため車内で転倒	
経過2			
経過3			
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

• • • • •

○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合:ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

集中力、注意力がなかった。他隊(員)から適切な注意を受けられなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ
b. 注意力が欠如していた	
・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用 방법이誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

検討会を行い、原因と今後の対策を話し合い、同様の事故を二度と起こさないように周知徹底を図った。

○装備・資機材の対策について

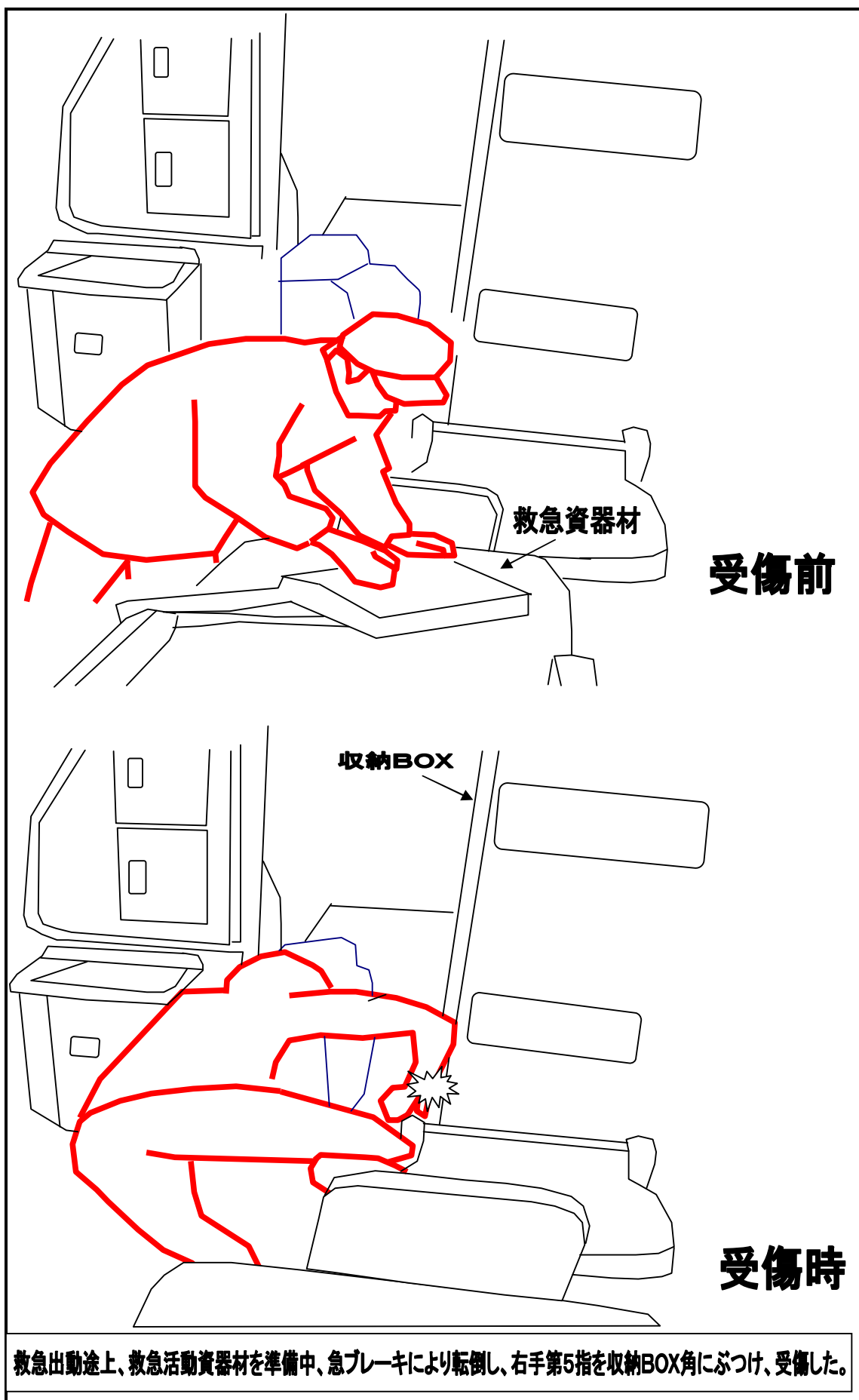
特になし

○活動環境の対策について

救急車に限らず緊急走行時には、機関員が「曲がる」「止まる」などを呼称し、緊急車に同乗した隊員に緊急車両の動向等を周知する。

○指揮・情報伝達の対策について

特になし



救急出動途上、救急活動資器材を準備中、急ブレーキにより転倒し、右手第5指を収納BOX角にぶつけ、受傷した。